

各位

会社名 セガサミーホールディングス株式会社
 代表取締役会長兼社長
 代表者名 里見 治
 (コード番号 6460 東証第一部)
 問合せ先 執行役員
 堀田 正 君
 (電話番号 03-6215-9955)

平成20年3月期中間期業績予想の修正に関するお知らせ

平成19年5月11日に公表いたしました平成20年3月期(平成19年4月1日～平成20年3月31日)の中間期連結業績予想を下記のとおり、修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

中間期連結業績予想 (平成19年4月1日～平成19年9月30日)

(単位: 百万円、%)	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回発表値 (A)	310,000	14,000	13,000	▲5,000
今回修正値 (B)	230,000	▲7,000	▲6,500	▲21,500
増減額 (B-A)	▲80,000	▲21,000	▲19,500	▲16,500
増減率	▲25.8%	—	—	—
(ご参考) 前中間期実績	283,551	62,931	66,029	37,997

<修正の理由>

当中間期におきましては、パチスロ遊技機事業において主力タイトルの許認可取得が遅れたことにより販売台数が48万6千台の計画に対して31万台となる見込みであること、パチンコ遊技機事業において品質向上を目的に一部タイトルの販売を延期したことにより販売台数が12万7千台の計画に対して5万7千台となる見込みであること、業界協調施策として期間限定で提供しているパチスロ遊技機のレンタルサービスの利用が計画を上回り、販売単価が低下(収益計上の繰延)する見込みであること等を受け、遊技機事業は売上、利益ともに中間期計画を下回る見込みです。アミューズメント機器事業は堅調に推移しております。アミューズメント施設事業、コンシューマ事業は売上高が中間期計画を下回る見込みです。

以上の結果、当中間期における連結売上高は当初計画と比較して800億円の減少となる2,300億円を見込みます。利益面では当初計画どおりコンシューマ事業をはじめとして主力製品・サービスの提供が下半期中心となり、中間期は費用が先行する一方で、遊技機事業の中間期における営業利益が120億円に留まる見込みであることから、当中間期においては営業損失70億円、経常損失65億円を見込みます。また法人税等の計上により中間純損失215億円を見込みます。平成20年3月期における中間配当金につきましては当初予想通り、一株につき30円を予定しております。

なお、平成20年3月期通期業績予想につきましては、中間期業績見込みや遊技機事業における主力タイトルの許認可取得遅延が引き続き想定される等、厳しい経営環境を勘案し、現在見直しを行っており、分かり次第公表させていただく予定です。

※上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上